

さんぽ木だより

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——

vol.41
2022 夏号



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成7年版)より 詩／坂村真民「涙砂」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

vol.11

青春と五十鈴川のほとり

濁らぬ川 (88歳)

第四百二十五番碑に

千代八千代濁らぬ川の川岸に
願ひかないて真言碑建つ

川は神の川

五十鈴川

その川の岸辺にある

お寺の一室を借り

自炊していた

わたしは二十歳

神の川で

顔を洗い

米をどぎ

茶をわかし

茶碗を洗い

音を聞きつけ

集り寄りくる魚たちと

親しく過ごした

(中略)

濁らぬ川の永遠なるように

国を言祝ぎ

建ち栄えゆけ



425番碑の建つ公園

今号から、短歌を投稿するときに使用した真民(この時期はマタミと読む)という名前でゆきたいと思います。掲載詩は、父・真民88歳の春、第425番碑の除幕式に参列したときの感慨を詠んでいます。

さて伊勢時代に移る前に、前回登場の渾名がナポレオンという先生のことについて少し。旧制中学校卒業から二十数年後、短歌から詩に転じた真民が自費出版の詩集を長崎県大村

市出身のナポレオン先生にお送りしたときのことで。長い長いお手紙が、カステラと共に父の元に届きました。大感激された内容だったそうです。初任地で教えた生徒が、自分が卒業した神宮皇學館、専攻した本科国語漢文学科で学び、文学を志して詩人の道を歩んでいることに驚くと同時に心から喜びが湧いて、返事を書くペンが止まらなかつたのでしよう。ナポレオン先生にとっては、自己の教師人生が意義あるものとして肯定され、誇りを感じられた事と思います。「生徒が先生にお菓子贈るのは普通やが、先生から生徒に贈っていたのは、私くらいやろう」と父は、はにかみつつも嬉しそうに話してくれました。詩集が新しく出る度に、先生にお送りしていたようです。私が幼いころの愛媛県南予地方では、普段のお菓子と言えばイモ飴やイモ煎餅だった時代、カステラは夢のお菓子でした。残念ながら私には味の記憶が無く、宝物入れにしたいと貰った菓子箱のほうが好きくて、こちらは鮮明に覚えていきます。

ここからは伊勢時代、この詩を紐解いてゆ

表紙の詩



涙砂（77歳）

地球に額をつけて
祈るようになってから
地球が泣いていることが
よくわかるようになった
涙が砂ににじみ
それが額にくっついてくるのだ
わたしはその涙砂を
大切に持ち帰るようになり

今では壺にだいたった
ああ深夜聞こえてくる
この壺の中の砂の声よ
あの原爆地広島で
聞いたのと同じ
重い重い哀切の声よ

坂村真民が砥部から重信川を渡り、松山側の川原で「朝の祈り」をするようになったのは、新田高校を退職した後の72歳からです。

川原に五体投地をして、大地に額を付けて「朝の祈り」を行っていましたので、この詩に出てくる「砂」が額に付くようになったのだと思います。

真民詩に「涙壺」という詩がありますが、これは古代ローマの時代に、愛する人を失った悲しみの涙を溜める小さな壺ですが、真民はおそらくこの「涙壺」にヒントを得て「涙砂の壺」を考えたのではないのでしょうか。

きましよう。伊勢時代が持つ意義の一つで、その後の生き方にとっても大切な場面が描かれています。

お寺は、禅寺の心證寺と言い、五十鈴川のほとりにありました。すでに廃寺となり、現在は市の公園になっているそうです。そのお寺の一室を借り、生活費を節約するために自炊しました。「川で米をといだら茶碗を洗ったりしていると魚たちが寄って来るんや。まったく人を怖れない魚たちなんや」。これは父の大好きな話で、よく聞いたものです。お寺での4年間、その日々は五十鈴川の水と共にありました。

この地に詩碑を建てたいと発願されたのが、『タンポポだよりvol.7』の「真民詩とわたし」に登場された大西重子さんです。多くの方々のお力添えにより、10年後の平成9年4月27日、建立の運びとなりました。

随筆の中で、真民はこう記しています。―わたしは青春の4年間で伊勢の五十鈴川のほとりで過ごしたのであるが、あそこは神域であり禁猟区なので、川に住む魚も木々に群がる鳥たちも、実にのびのびとしていて、昔ながらの姿、昔ながらの声で生きている。あの山ふところまで聞いた鳥たちの爽やかな声は忘れるこ

とができず、あの川で知った魚たちの怖れを知らぬ生き生きとした姿は、今もわたしのポエジイの根源となっている―

後年、真民はこうも言っています。

「怖れを知らない魚たちを知ったことは、私にとってひとつの悟りのようなものであった。」

そしてこう続くのです。

「無差別平等の華嚴の教えを感得させてくれた。」と。

次回も、伊勢での青春の日々に迫ってみたいと思います。

文／西澤真美子

『詩集 念ずれば花ひらく』のこと

株式会社サンマーク出版 代表取締役社長 ^{うえ き のぶたか} 植木 宣隆

昭和26年京都府生まれ。大学卒業後、潮文社を経て教育研究社（のちサンマーク出版）に入社。春山茂雄著『脳内革命』を企画編集したほか、稲盛和夫著『生き方』や近藤麻理恵著『人生がときめく片づけの魔法』などを含めて、8冊のミリオンセラーに恵まれた。



真民さんをはさんで筆者（左）、斎藤竜哉（1998年頃）

さりげなく平易な言葉の中に込められた、深い心情とかきりない情熱：そうした真民詩の神髄を一冊の詩集にまとめたという気持ちが生えたのは、四半世紀も前のことになります。曲折を経た後に、ようやく真民さんから許諾を頂戴できたときの胸の高鳴りは、いまも忘れられません。

そして詩の選定作業を都会の塵芥に埋もれて行うのはそぐわないと、編集部の斎藤竜哉と信州・山田牧場

の山荘に「山籠もり」をして集中的に取り組み、寝ても真民詩が脳裡から離れないという得難い体験をさせていただきました。

出版の仕事に携わって四十六年、手がけた単行本はかなりの数に上りますが、とりわけ思い入れの深い作品となりました。幸運にも本書は一九九八年の刊行以来版を重ね、四十一刷十萬八千部と詩集としては異例のロングセラーとなっています。

年を経るにつれて、真民詩の短くやさしい言葉に秘められた「生きることの真実」が胸に迫ってきます。

例えば「桃咲く」と題された、この詩です。

病いが
また一つの世界を
ひらいてくれた

桃
咲く

ここでは、病にせよ労苦にせよ、一見過酷なだけとみなされがちなもの、が、これまで知らなかった世界へ通じる、輝く「天使の梯子」となりうる

の思いが歌われているような気がします。

こうした思いが、「桃咲く」というわずかに二語によって絵画的な美しさに昇華されていく。

この詩に触れるたびに、真民さんが朴の太木を前にして、幹に頬を寄せながら瞑目して手を合わせておられた情景や、野の草花を慈しみ、愛でておられた姿を思い起こします。

自然の中に、すべてのメッセージが含まれているのですよと、語りかけておられるのかもしれない。

これからも折に触れてこの詩集を開き、真民さんの声に耳を澄ませるひとときを大切にしたいものです。

また経営者としても、目に見えないものの限らない価値について気づきを与えてくれるこの作品集を、次世代に手渡していくのは大きな責務だと感じています。

とりわけ心かき乱すできごとが毎日のように押し寄せてくる昨今、未来を照らし出す松明のような役割を担ってくれることを強く念じるばかりです。

企画展のお知らせ

「坂村真民と家族の詩^{うた}～妻と3人の娘と紡ぐ家族の物語～」

開催期間 2022年9月3日(土)～2023年2月26日(日) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

坂村真民の詩の中で一番多いのは、家族を詠った詩です。貧しい生活の中で一生懸命に生きようとする家族の、切なく哀しい中にも、喜びと愛情あふれる日常の生活を詠った詩がたくさんあります。

今回は、三瓶、吉田、宇和島時代の真民と家族の物語にスポットを当てて、幼い3人の娘の成長を願い、その子供達が一瞬見せる純粋な姿、何気ない言葉を詩人の感性で受け止め、それを詩に書きとめた「家族の詩(うた)」を展示します。

また、当時の写真やゆかりの品物、真民が書き残した「思索ノート」から、詩としては表現されていない「真民の心の奥にある妻や子供達への愛情あふれる言

葉」を取り出して、パネルにまとめて分かりやすく展示し、「家族の物語」を再現しています。

さらに、真民の妻であり3人の子の母である坂村久代にも焦点を当て、真民が真民らしく生き、「真民流の生き方」を貫くことができたのも、3人の子が素直で明るく優しい娘に育つことができたのも、この「妻・母」のおかげであることを詳しく解説しています。

コロナ禍の中で、人間の幸せについて考えるときに、「本当の家族の幸せとは何か」を教えてくれる「真民詩」に出会う展示となっています。どうぞ、「懐かしい故郷の家」に帰ったつもりで、心安らぐひと時をお過ごしください。



昭和24年秋(三瓶の家)



昭和27年5月17日
(真民43、久代35、梨恵子8、佐代子6、真美子3)



昭和30年
(真民46、久代38、梨恵子11、佐代子9、真美子6)



昭和35年
(真民51、久代43、梨恵子16、佐代子14、真美子10)

書物を丹念に読み解き 真民さんの真髓に触れる 日曜講座へのお誘い

- 開催日程：(令和4年)6月19日、7月は休み、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月は休み
- 時 間：10時30分～12時

坂村真民記念館では、毎月第3日曜日(原則)に日曜講座を開催しています。

真民詩集または真民の随筆集を順番に採りあげ、その中から5～6篇の詩または3～4小節を選び、その意味と背景について館長が分かりやすく解説します。その後参加者の皆様と意見や感想を交換しながら、坂村真民の人間としての生き方やその詩・文の持つ意味について理解を深めていただくための講座です。

現在は、随筆集「一遍上人語録 捨て果てて」を採りあげ、毎回15～20ページづつ読んでいます。どうぞ、お気軽に参加して、真民の生きてきた足跡と一緒に辿ってみませんか。



〈お申し込み方法について〉

受講を希望される方は、お電話またはFAXまたはメールで以下の項目を、受講日の1週間前までにご連絡して下さい。

〈必要事項〉

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④受講希望日 ⑤年齢・性別
 〈電話〉089-969-3643 〈FAX〉089-969-3644
 〈メール〉info@shinmin-museum.jp

真民詩を学びながら ボランティアガイドをして豊かな心の世界をみつけませんか

令和4年度坂村真民記念館ボランティアガイド養成講座・募集要項

受講期間 令和4年7月3日(日)～9月25日(日)[全7回]

受講定員 25名程度(先着順)

受講場所 坂村真民記念館・会議室

募集期間 令和4年6月1日(水)～6月28日(火)

募集受付 希望者は、電話かメールで申し込みください。
 メールの方は、氏名、住所、年齢、性別、電話番号を記載してお送りください。
 〈メール〉info@shinmin-museum.jp
 〈電話〉089-969-3643

受講決定者には、記念館よりお知らせします。
 修了者には令和4年10月からガイドとして活動していただきます。

講座概要・日程表

回数	日 時	講 座 内 容	講 師
1	7月3日(日) 10:00～12:00	開講式、坂村真民の人生と詩(ビデオ鑑賞)	坂村真民記念館館長 西澤 孝一 西澤 真美子(真民三女)
2	7月10日(日) 10:00～12:00	坂村真民の生涯	
3	7月24日(日) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(1) 三瓶・吉田時代	
4	7月31日(日) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(2) 宇和島時代	
5	8月28日(日) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(3) 砥部時代	
6	9月11日(日) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(講義)	
7	9月25日(日) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(実習)、修了式	

坂村真民記念館を応援しています



ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



To-be

介護付有料老人ホーム
To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)

M To-Be

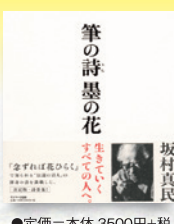
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

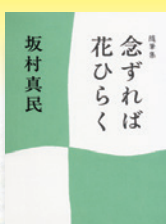
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし



致知出版社 坂村真民シリーズ



全424頁、
豪華
座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編集に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民 一日一詩

坂村真民＝著／藤尾秀昭＝編
定価＝本体2,000円＋税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる
言葉が見つかる



坂村真民 一日一言
坂村真民＝著
定価＝本体1,143円＋税
新書判

円覚寺派管長が選んだ
真民詩100選



坂村真民詩集百選
坂村真民＝著／横田南嶺＝選
定価＝本体1,300円＋税
新書判

真民氏が自らを励まし、
勇気づけるために綴った87篇の詩



坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民＝著／西澤孝一＝編
定価＝本体1,300円＋税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された
幻のインタビュー集



詩人の颯声を聴く
坂村真民＝著／藤尾秀昭＝聞き手
定価＝本体1,300円＋税
B6変型判上製

ち ち しゅ ばん しや
致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも
ご購入できます！

致知オンラインで検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の
会は、会員の皆様と記念
館との交流を図り、記念館
を共に支え、育てていくこと
を目的とした会です。入会
された方には会報と、真民
グッズなどの記念品を贈呈
します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください 坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

中国・関西地方にお住まいの方に朗報です。7月9日(土)から9月4日(日)までの会期で、岡山県高梁市の成羽美術館で「坂村真民の世界」展が開催されます。こちらから約80点の作品を持って行きます。7月9日、17日、8月7日は私と真美子も美術館におります。お知り合いの方に宣伝して、一緒に来てください。(西澤)

タンポポだより vol.41 夏号

令和4年6月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり